



## 第 22 号

発行日 平成 21 年 10 月 15 日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201  
日蓮宗本山東身延 深原寺  
発行責任者 総務執事 増田 寶泉  
TEL 0475-22-3153

- 月崎上人が退職しました。(7/20)
- 川崎上人が嘱託職員として復帰しました。
- 10月15日の京都団参を中止にしました。



## 日蓮大聖人第七三八遠忌報恩お会式



十二月十四日(土)  
万灯行列  
茂原小より四時半出発  
報恩法要  
午後五時大堂

賞首様のお言葉  
新しい社会の  
出現を冀う



今年の八月三十日におこなわれた第四十五回衆議院議員選挙の結果には日本国中の人々がびっくりしたことでありましよう。

予て新聞の報道などでは情勢調査の結果民主党の大勝利を予想しておりましたが、それが現実になるとは国民全体が信じていたとは思われません。

近代日本は明治維新によってスタートしました。江戸時代から明治時代へ変わるに当たって、廃藩置県が行われ、武士制度がなくなり、西洋の文物を模倣した大改革が行われ、明治憲

法が施行されて格差を是認し、天皇制専制国家が樹立されました。

やがて明治、大正、昭和とつづく近代化の時代に領土の拡張のため他国への侵略戦争を行い、戦いに敗れて占領軍による華族制度の廃止と農地解放が行われ、新しい憲法が施行されて民主国家となりました。

今回は前二回のようなエポックメイキングな事件があったわけではありませんが、第三の変革と言っても良いと思います。

戦後六十四年のうち、ほとんどといっていい六十年間は自民党の一党独裁政権でした。これは民主主義の國においては珍しいことでもあります。いろいろな意見の人がいるにかかわらず自民党が政権を維持していたと言ふことは、経済復興に邁進し、東西の冷戦の中で、右と左の対立ということで日本の政治が形付けられていたからであります。冷戦が終息して左右の対立激化ということが無くなった現

在、成長路線を目指し、従来通りの自民党政権の終末が来たのでしよう。この事態は「戦後の終焉宣言」といって良いと思います。

これは総選挙という手段による改革で、流血の惨事のない静かな変革ですから、戦後六十数年に亘る時代の中で形成された社会の歪みに真摯に向き合って勇気を持って解決を図っていくことを願って、応援していきたいと思ひます。

特に明治政府樹立から第二次世界大戦の敗戦を経て維持されてきた中央集権と中央官庁主導の政治経済システムを転換し、地方分権と地方の主體的な政策の展開を望みたいと思ひます。ただ千葉県が一番ひどいのですが、不正経理をしているようでは地方に任せられないという声も高まるでしょう。いずれにしても、自由であるよりも、平等でありたいという日本型の民主主義を確立しても

す。

新政府は今具体的に大鉦を振るおうとしていますから、結論は簡単に出ないと思ひますが、国民生活にその影響は徐々に出てくると思ひます。

経済大国でなくても好い、自立した文化豊かな、人類の和平と福祉の為に貢献が出来る國になつてもらいたいと思ひます。

佛教は明治政府の廃仏毀釈政策によって大変な打撃を受けましたし、敗戦後の占領軍の農地開放政策によって経済的な基盤を失つた多くの寺院がありました。

この後にどのような事態が起こるか推測が出来ませんが、未来に向かって歴史と伝統を尊重した社会が築かれることを望んでおります。

佛教も人々の心の支えとなるよう切磋琢磨していかなければなりません。



## 中国仏教訪日代表団来山

十月十五日中国仏教協会代表  
 団学誠団長以下六十一名の僧  
 侶と中国国家宗教事務局役員  
 五十四名の計百十五名が当山を  
 表敬訪問しました。

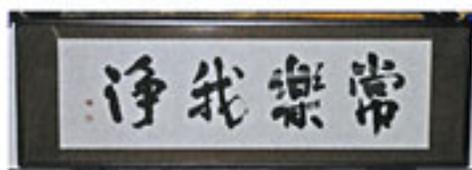
この訪問は、持田貫首が日中  
 友好宗教者懇話会の会長を務め  
 ていることなどから実現しまし  
 ました。本堂で行われた歓迎式典で  
 は、持田貫首が「当山訪問を心  
 から歓迎している」とあいさつ  
 しました。同団の蔣堅永中国国  
 家宗教事務局副局長は「中日仏  
 教交流は緊密であり、両国の友  
 好にも繋がると思う」と応じま  
 した。その後記念品を交換し友  
 好を深めました。一行はこの後、  
 書院や仏殿に分散し、精進料理  
 の弁当や柔  
 和会が作っ  
 たお寿司等  
 に舌鼓をう  
 ち大変喜ん  
 で夕方遅く  
 帰途につき  
 ました。



## あ 納

当山は開創当初「常楽山妙光  
 寺」と称しました。現当貫首持  
 田日勇現下は、雲山聖人・雲道  
 聖人報恩謝徳の為、「常楽我浄」  
 「妙光普照」の扁額を大堂内正面  
 左右に設置されました。

揮毫されたのは、貫首様の姪  
 で雲道聖人の長女  
 の長女で書家の金  
 井晴雲女史です。  
 女史は平成十四  
 年第三十四回日  
 展に入選、平成  
 二十一年第二十六  
 回読売書法展で読  
 売新聞社賞を受  
 賞し、本年の第  
 四十一回日展に再  
 度入選しました。



ジュース沢山 横堀勢み様  
 切手・葉書沢山 石井静江様  
 もぐさ 星野菜舗様  
 お米三〇kg 石井静栄様  
 山田石材本店舗  
 房総緑化様  
 田中妙定様

西川きよ様  
 熊切和夫様  
 金坂忠利様  
 安藤轟勇様  
 寺田憲司様  
 鎗田泰夫様  
 大谷覚子様  
 佐藤良子様

## 第二壇日向聖人の祥月命日

九月三日の日向聖人第六九六  
 遠忌を迎えるにあたり世話人有  
 志が奥の院の清掃作業を行いま  
 した。奥の院は地元法華谷の檀  
 家が管理していましたが、四年  
 前より本山において行うよう  
 になり、世話人をお願いするよう  
 になりました。年三回草刈り、  
 植木の手入れ等行っています。  
 今年は八月二十九日猛暑の中、  
 草刈り・植木の刈込みと参道欠  
 損の為、生コンでの補修作業と  
 丸一日かかって行われました。  
 十月三日奥の院での大祭が行  
 われました。

## お盆行事

八月十五日午前九時より施餓  
 鬼法要が行われました。本年新

盆にあたる遺族関係者の臨席の  
 もと五十二霊位の精霊に懇ろな  
 回向が行われ、参列者一同焼香  
 しました。続いて新盆諷誦供養  
 が行われました。

八月二十四日午前十時より弁  
 天湖畔で川施餓鬼法要が総代・  
 世話人・常在講・柔和会等三十  
 数名の参列のもと行われ、続い  
 て戦没者忠霊塔・歴代墓地・無  
 縁墓地等に追善供養が行われま  
 した。

## 行事予定

華経房例祭 毎月一日 十一時  
 お会式 十一月十四日(土)  
 子育て観音大祭 十二月五日(土) 十五時  
 お焚上げ・除夜の鐘 十二月三十一日 二十二時  
 新年祝祷会 一月一日 〇時  
 新年祈願会 一月一日〜三日  
 九時〜十六時  
 お頭講会 一月十一日(祝) 十時  
 節分豆撒式 二月三日(水) 十五時